



あいさつは心の窓

校長 平島幸江

先日、「沖縄では梅雨が明けた」というニュースがありました。この横浜でも梅雨明け宣言が待ち遠しい毎日です。でもそれは大人が目線での願望で、児童はそれよりも夏休みが待ち遠しい毎日かもしれません。今年の夏休みは、今まで控えていたことを心置きなくできるようになることなのでしょう。体調管理には十分に気を付けて有意義な夏にしてほしいです。また、夏休みまでの7月の学校生活も充実したものになるように指導を続けていきたいと考えます。

さて、先日の放送朝会で、「虹」「きみ」「気分がはれる」「明日」「雨が降る」「いい天気」の手話表現を児童と楽しみました。6月の歌「虹」(作曲：中川ひろたか、作詞：新沢としひこ)を手話で表現しながら一緒に歌って見たのです。ただ、私は放送室のカメラの前で一方的に話したり手話をしたりしているので、教室で児童がどんな反応をしているのかつかめず、「リアルな反応が欲しかったなあ」などとちょっぴり寂しく思いながら朝会を終えました。



何日か経って、朝、正門前でいつもの通りに登校してくる児童を迎えていたところ、ひとりの児童が「校長先生おはようございます。」とあいさつをしてきてくれました。そしておもむろに「明日は釣りに行きます。楽しみです。」と手話表現で話しかけてくれました。もうびっくりで、うれしくて、とても気持ちのよい朝でした。それ以来、手話表現をつけながら「おはようございます。」とあいさつを交わしていると、別の児童が、「校長先生、手話のありがとうって、私できますよ。」と表現方法を教えてくれました。また別の児童は「ぼくは、中国語のありがとうを知っています。シェイシェイ！あいさつはね、ニーハオ！」

朝のあいさつからいろいろな繋がりが広がり、正門での見守りが、更なる楽しみになりました。

「あいさつは心の窓」という言葉があります。心が開かれているときには、自然とあいさつからコミュニケーションが始まります。逆に心が弱っていたり閉じていたりするとあいさつは出てきません。ですから、私は、そういう時に「何でしないの。」「あいさつしなさい。」とは言いません。そのかわり、「どうしたの?」「何かあった?」と声掛けをするようにしています。すると、「うん、今日寝坊しちゃったの。」「昨日たくさん運動して疲れた。」などと言葉を返してくれます。「がんばって登校したのだね。」「運動したのだね、筋肉が成長しているはず!」などと肯定します。すると、ちょっと安心した顔で昇降口に入っていき一日がスタートです。

ご家庭では、お子さんとあいさつをされていますか?毎日実践されているご家庭の中には、「おはよう」の「お」、「ただいま」の「た」、を聞けばその日のお子さんの体調がわかる方もいるかもしれません。ぜひ、お子さんの心の窓をご覧になってみてください。そしてお子さんとのコミュニケーションを楽しんでみて下さい。